

令和2年度 鳴門市学校評価書

鳴門市鳴門中学校

I 経営の重点に関すること

学校教育目標

A;大変よい, Bまあまあよい, C少し課題を感じる, D;課題である

項目	内容	中間評価	年度末評価	コメント
重点目標(重点的に求める価値目標)	学校教育目標 知・徳・体の調和のある発達を図り、個性豊かで社会の変化に対応できる広い社会性を身につけた生徒を育成する。	B	B	コロナ禍の不安の中、学校教育目標の達成に教職員は一致団結して取り組み
具体的な取組 (組織として価値観を揃えて取り組むこと)	1 確かな学力の育成「主体的・対話的で深い学び」を実現する ①基礎的・基本的な知識・技術を伸ばし、個に応じた指導を充実させる。②自分の課題を見つけ、対話的な活動を通じて解決していく態度の育成。	C	B	新型コロナ感染防止対策と授業時数取り戻しのため、班活動や実験等が行えず、講義形の授業が多くなった。後半は対話や活動を重する授業もできるようになった
	2 豊かな心の育成を目指す道徳教育の充実 ①道徳の時間の充実させ、深く考え議論する場を創り出すとともに、全教育活動との関連を図り道徳実践力を育成する。(来年度の教科化に向けた年間計画の整備と実践) ②自己を見つめ、人間としての生き方を考えることを通して、道徳的な判断力と心情、実践意欲と態度を育てる。 ③家庭や地域と連携して規範意識を育成し、いじめや暴力を許さず、生命を大切にしたい心や思いやりのある豊かな感性を育成する。	B	B	特別の教科道徳の実施にあたり、教育計画の作成や、学年団の取組による指導方法の工夫、評価の検討などに取り組んだが、実際の生活のなかで道徳性に基づいた行動ができていない生徒が多い。
	3 健やかに生きる力の育成 ①学校体育の充実。②食育の推進と規則正しい生活の働きかけ③健康安全に関する正しい知識・理解を深める。	C	B	駅伝練習に数多くの部活が協力して取り組んだ。体育授業でも種目や指導法の工夫が見られたが、一部の生徒が体育の授業に真面目に取り組めなかった。
	4 一人一人を大切に特別支援教育の推進 ①個に応じた指導計画の作成ときめ細やかな指導の展開。②保護者・関係機関と連携を取り、自立・社会参加を目指す進路指導の展開。	B	A	支援学級の生徒一人一人に丁寧に関わり、3年生の進路指導に成果をあげることができた。
	5 人権を尊重し、自他を大切に認め合う学校づくりをめざす一泊二日研修が生徒間に広がる取り組みをしよう ①自他を大切に、考えや意見を伝え合い、わかり合える関係を作る。②「感じ・考え・行動する」ことを通して、他の人と共によりよく生きようとする生徒を育てる。	B	A	11月に行った、ヒカリカナタ基金理事長の竹内氏の人権講演会はその内容がすばらしく、生徒の人権意識の高揚に成果があった。
	6 安全で安心な学校づくり ① 防災教育の推進 ②安全教育を推進し、事故やけがを防ぐ。③いじめや仲間はずれのない安心な学校づくり	A	A	新型コロナウイルス感染防止対策を徹底することができた。
評価指標 (具体的な求める子どもの姿・行動目標)	1 課題に取り組み、基礎的・基本的事項を理解するとともに、主体的に考え、自分の意見を発言したり、書いたりする生徒。	B	B	授業での発言も増えて活発になったが、学級差、個人差は大きい。
	2 道徳の時間に深く考えて意見交換をするとともに、友だちと協力してよりよい生活を作り出そうとする生徒。	B	B	10月に行った運動会に一生懸命に取り組めたことで、学級の団結が促進され
	3 運動を楽しみ、「早寝・早起き・朝ご飯」を意識した生活ができる生徒。	C	B	遅刻・不登校傾向の生徒は多いが、改善傾向にある。
	4 自己の力を精一杯発揮し、社会人としての自立をめざして活動する生徒。	C	C	自己肯定感が低く前向きでない生徒が多いが。
	5 自他を大切に、「感じ・考え・行動する」生徒。	B	B	生徒会が行事の目標に「感じ・考え・行動する」を位置づけ、全体で意識できた。
	6 いじめや暴力のない学校を作ろうとする生徒。自分や家族、学校や地域の安全について考え、行動する生徒。	C	B	規範意識の低い生徒に対して、生徒同士で注意する姿が見られるようになった。

スローガン 生徒も教師も、「感じ・考え・行動する」ことを大切にしよう

学校の自己評価・改善方針
今年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、50日に及ぶ臨時休業や多くの学校行事、部活動の大会が中止となる状況の中、生徒や教職員の安全と安心感の確保と教職員の協働体制の確立を最優先に学校経営を行った。その成果として、感染症防止対策を適切に行うことができたこと、コロナ禍の不安の中でも、文化祭、運動会、人権講演会、球技大会を成功できたこと、そして、その学校行事を通して生徒がそれぞれに成長できたことが挙げられる。また、多くの生徒と教職員は前向きな気持ちで、「今できること」、「今しなければならぬこと」に真摯に向き合い、努力を継続することができた。さらに、各学年での生徒指導上でのトラブルに教員が連携して取り組み解決でき、その後の人眼 関係委の改善を図ることができた。しかし、規範意識の低い生徒や不登校生徒への対応は各学年団や学校として粘り強く継続しているが、十分な成果がでていないと見えず、改善を要する課題である。

学校関係者評価
・生徒アンケート調査で学年による差が大きい。
・いじめへの対応を今後もしっかりと継続してほしい。
・不登校生徒に対していろいろな働きかけがされているが、これからも継続して取り組んでほしい。

II 学校アセスメント

A:大変よい(90~100%), Bまあまあよい(89~80%), C少し課題を感じる(79~70%), D:課題である(69~0%)

大項目	中項目	学校の取り組み	中間評価	年度末評価	子ども調査	中間評価	年度末評価	保護者調査	中間評価	A, Dについてはコメントを付す
学習指導の充実	学習意欲の向上	魅力的な授業展開の工夫	B	B	1 先生はいつも分かりやすく教えてくれる	A	/	1 子どもは、学校の勉強に意欲的に取り組んでいる	D	個人差が大きい。
	基礎基本の定着	学力テスト・ステップアップテスト	B	B	2 漢字や計算の力がついてきている	B	/	2 子どもの学力状況はよく分かっている	A	
		単元末テスト・中間テストなど	B	B	3 成績に満足している	C	/	3 学校は、学力向上に向けて熱心に取り組んでいる	B	
	思考・判断力の向上	学力テスト・ステップアップテスト	B	B						
		単元末テスト・中間テストなど	B	B						
	体力の向上	体力テストの結果など	B	B						
		体力づくりにつながる活動の実践	B	B	4 進んで運動し、体力づくりをしている	C	/	4 学校は、子どもの体力づくりに取り組み、効果を上げている	B	
	学習規律の定着	学習の仕方のルール作り	A	A	5 授業中に人の話を集中して聞いている	B	/	5 学校は、子どもの学習規律の定着に熱心に取り組んでいる	C	
		授業観察	B	B	6 宿題をきちんとしている	B	/	6 子どもは家庭学習(宿題)を、きちんとしている	C	
	課題解決的な学びの充実	「めあて」や「まとめ」を表示した授業実践	B	B						
	協働的な学びの充実	グループ学習の実践	B	B	7 グループで調べたり、課題を解決する学習が好きである	B	/			
	習熟に応じた指導の充実	習熟度学習の実践	B	B						
	ICT等を活用した指導の充実	ICT活用の授業の実践	B	B	8 電子教科書などを使った授業は好きである	A	/			電子黒板はよく活用されている。
	特色ある指導	授業の中で自分の考えを書く・話す場の設定	B	B						

大項目	中項目	学校の取り組み	中間評価	年度末評価	子ども調査	中間評価	年度末評価	保護者調査	中間評価	A, Dについてはコメントを付す	
生徒指導の充実	肯定的な自尊感情の向上	全ての子どもを全ての教職員で指導する体制作り	A	A	9 自分にはよいところがある	C	/	7 子どもは、自分のいいところについて理解している	C	自己肯定感をもっと高める必要がある。	
		ほめて育てるを基本とした生徒指導の実践	A	A	10 先生は、頑張ったときほめてくれる	B	/	8 子どもがよいことをしたときは、積極的に褒めている	A		
	自己指導力の向上	問題が起きたとき、子どもが自ら考え、判断できる指導実践	B	B	11 物事がうまくいかないとき、粘り強く対応できる	C	/	9 子どもは何事にも粘り強く、問題に取り組む	D	学習や行事への適切な動機付けを行いたい。	
		家庭訪問等により、家庭と連携した指導体制作り	A	A	12 自分の判断で、行動するようにしている	B	/	10 子どもが粘り強く問題に取り組めるように、家庭でも応援している	B	今年度、家庭からのクレームは1件もない。	
	生活習慣・規律の定着	生活習慣の実態把握と向上への取り組み	身の回りのことは、自分で片付ける	B	B	13	B	/	11 子どもは、自分の身の回りのことを自分でしている	C	
			朝は決まった時間に起きている	B	B	14	B	/	12 子どもはルールを守る意識が育っている	A	
		あいさつの指導などを全学的に実施	B	B	15 先生、友達、近所の人に進んであいさつをしている	B	/	13 子どもは、先生、友達、近所の人に進んであいさつをしている	B	生徒会の朝のあいさつ運動、清掃活動はよい効果を挙げている。	
		生徒会活動の支援による学校活性化	A	A						生徒会の「学校をよくしよう」という意識は高く、下級生がその姿を尊敬している。	

大項目	中項目	学校の取り組み	中間 評価	年度末 評価	子ども調査	中間 評価	年度末 評価	保護者調査	中間 評価	A, Dについてはコメントを付す
46 学校経営 の改善	校務分掌の組織化	校務の見直しや組織の改廃	B	B						
	教員の参画意識を高める	学校経営・運営ビジョンの共通理解	B	A						
	学校事務の効率化、効果的な会議	情報の分類・整理の推進	B	B	部活動は決められた方針に則して実施している。	B		部活動は決められた方針に則して実施している。	B	部活動方針の確認・徹底が必要。
		その他各校独自の取組()	B	B						
50 教員研修 の充実	共通テーマにそった研修	校内研修の充実	C	B						
	研修会等への参加と報告	受講研修内容の伝達の推進	B	B						
		実践発表会による成果の共有	C	C						
53										
54										
55										
56										
57										
58		その他各校独自の取組()								

学校の自己評価 改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策により、50日に及ぶ臨時休業や多くの学校行事、部活動の大会が中止となる状況の中での学校運営であったが、教職員と生徒は、前向きな気持ちで「今できること」を大切にして、日々の授業や部活動に粘り強く取り組むことができた。 ・一部の教科の授業で真面目に取り組めない生徒への指導を継続しなければならなかったが、概ね落ち着いた環境の中で、学校教育活動が展開できた。 ・コロナ禍の中でも、文化祭、運動会、球技大会を生徒会役員が中心になって成功させることができた。そして、それらの行事を通じて一人一人の生徒が成長することができた。 ・不登校傾向の生徒が学校に登校できりょうに、家庭・保護者と連携しながら粘り強く取り組んでいかなければならない。 ・コロナ禍で多くの多くの学校行事が中止になったため、保護者や地域が学校に参画する機会が大幅に減少した。 ・職員の働き方改革は十分進んでいない。もう一度部活動方針の改善、徹底を行うとともに、教職員の役割分担を工夫する必要がある。
-----------------	--

学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育で外部講師を招いた出前授業がたくさん行われていて、活動も充実しているのは評価できる。 ・生徒アンケートでは、学年により差が大きい。 ・いじめを許さない指導を継続してほしい。 ・不登校生徒に対していろいろな働きかけがされているが、これからも継続して取り組んでほしい。
---------	--